エコアクション２１

環境経営活動レポート

令和 3 年度　4版

（対象期間 ： 令和 3年 9月 1日 ～ 令和 4年8月31日）

豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち

発行日 ： 令和 5年 4月 1日

昌 栄 建 設 株 式 会 社

熊本県菊池市西寺1725番地5

エコアクション21環境経営活動レポート

昌栄建設 株式会社

【目次】

1. 環境経営方針 …… 1

2. 事業の概要 …… 2

3. 実施体制 …… 3

4. 中期環境経営目標 …… 4

5. 主な環境経営活動計画 …… 5

6. 2020年度環境経営目標とその実績 …… 6

7. 環境経営活動計画の実施状況 …… 7

8. 環境経営目標の達成状況の評価及び次年度の取組み… 9

9. 環境関連法規等の遵守状況 …… 10

10. 代表者の全体評価と見直し …… 11

[1]環境経営方針

昌栄建設 株式会社

環　境　経　営　方　針

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重大課題との認識に立ち、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向かって、全社一丸になり、自主的・積極的に地球環境保全に配慮して建設事業活動に取り組み、環境経営の継続的改善を実施します。

【活動計画】

1,事業活動としての建設工事における騒音・振動・粉塵防止に努めます。

2,環境に配慮した工法・施工を提案していきます。

3,電力量・化石燃料の無駄を無くし、二酸化炭素排出削減に努めます。

4,建設資材の省資源化・再生資源利用（グリーン購入）、廃棄物の3R（減量・再使用・再生利用）の推進に努めます。

5,水資源の節水に努めます。

6,事務所における省資源活動（ｺﾋﾟｰ用紙の再利用等）、省エネ活動（電気・水等）に努め、事務用品等 のグリーン購入を推進します。

7,環境関連法規等を遵守します。

全従業員が、上記の環境方針を熟知し、積極的に実施できるように周知します。

制定日　　令和 元年 9 月 1 日

改定日　　令和 2 年 9 月 1 日

代表取締役　　野村　和代

[2]事業の概要

1. 事業者名及び代表者名

昌栄建設株式会社
代表取締役社長　野村　和代

2. 所在地

(本　社)
〒861－1323
熊本県菊池市西寺1725－5
電話:0968－24－7218　　FAX:0968－24－7227
E-mail:nakamitu@shoeikensetu.co.jp
(倉庫兼駐車場)
熊本県菊池市西寺1765-2

3. エコアクション21の環境経営管理責任者(代表者代理)及び担当者

環境管理責任者　:　野村　昌央
担　　当　　者　:　中満　修

4. 事業内容

〔特定建設業〕
許可番号　　熊本県知事許可(特－1)第4912号
許可年月日　　令和　元年　8月31日
建設業の種類　　土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業
〔産業廃棄物収集運搬業〕
許可番号　　熊本県　第04300199985号(令和5年2月　許可返上)

5. 事業規模

創業年月　:　　令和　元年　8月
資本金　:　　25,000　　千円

	単位	令和2年9月～令和3年8月
売上高	百万円	787

6. エコアクション21の認証登録対象範囲

登録番号　第0013070号
登録日　　2020(令和2)年5月20日
事業　　土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業
事業所　　全事業所

[3]実施体制

環境経営システムの役割と責任

代表者代理
野村　昌央

・環境経営方針の制定・改定、環境経営目標及び環境経営活動計画の承認
・環境経営システム全体の取組状況の評価と全般的見直し(年1回以上)
・環境経営の取組に必要な資源・人材の確保
・環境経営管理責任者の任命

環境経営管理責任者
野村　昌央

・環境経営システムの構築・運用の責任者
・環境経営システムの代表者への報告
・環境経営目標・環境経営活動計画の確認、進捗確認と修正の指示
・環境情報の外部への連絡、緊急事態発生時の判断
・問題の是正と予防措置の判断
・環境経営教育訓練の計画と実施

事務局
中満　修

・環境経営管理責任者の補佐、環境経営活動の事務所での推進
・環境経営目標・環境経営活動計画の作成
・環境経営活動計画の進捗の把握
・環境経営実績データーの集計
・環境経営文書作成発行・環境経営記録作成管理

事務所
野村　真由美

項　目	主担当者
電力使用量	野村　真由美
ガソリン使用量	野村　真由美
軽油使用量	野村　真由美
水使用量	野村　真由美
一般廃棄物排出量	中満　修
グリーン購入	野村　真由美

工事現場
松岡　由紀夫

項　目	主担当者
ガソリン使用量	高木　浩
軽油使用量	高木　浩
建設産廃リサイクル	中満　修
地域貢献	松岡　由紀夫
建設工期短縮	松岡　由紀夫

全従業員

[4]中期環境経営目標 （R元年度～R4年度）

中期環境経営目標 （4ヵ年）

事業年度:9月～翌年8月　　基準 R元年(2019)年度 : 2019年 9月 1日 ～ 2020年 8月31日

項　目	単位	R元年度 実績(基準)*2	R1年度 目標	R2年度 目標	R3年度 目標	R4年度 目標
1. 電力	kWh	4,688	4,641	4,594	4,547	4,500
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
2. 軽油	L	47,620	47,144	46,668	46,191	45,715
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
3. ガソリン	L	2824	2,796	2,768	2,739	2,711
使用量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
1. ～3. 二酸化炭素	kg-CO2	131,151	129,839	128,528	127,216	125,905
排出量削減*1		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
4. 一般廃棄物	kg	252	249	247	244	242
排出量削減		基準	-1%	-2%	-3%	-4%
5. 建設産廃 リサイクル率維持向上	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
6. 水 使用量削減		節水	節水	節水	節水	節水
7. グリーン購入		グリーン商品購入の優先購入	グリーン商品購入の優先購入	グリーン商品購入の優先購入	グリーン商品購入の優先購入	グリーン商品購入の優先購入
8. 地域貢献活動 （本社周辺道路清掃）	回	12	12	12	12	12
9. 建設工事工期 短縮	日	12	13	14	15	16

*1: 二酸化炭素排出量 kg－CO2 ＝（1:電気 kWh）×九州電力R1年度排出係数 0.370

*2: 基準数値は、短期（令和2年9月～11月の3ヶ月）の実績を基に12ヶ月に換算したものとしています。

[5]主な環境経営活動計画

環 境 経 営 活 動 計 画

項　　目	事　務　所		工 事 現 場	
	担 当 者	野村 真由美	担 当 者	松岡 由紀夫
①電力使用量の削減	・エアコンの温度設定 夏は 28℃、冬は 20℃ の徹底 ・エアコンフィルターの定期的清掃 ・エアコンの終業15分前オフ ・日除け・ブラインドによる夏季室温上昇防止 ・OA機器の退社時の電源オフ ・不要時消灯の徹底			
②軽油使用量の削減 ③ガソリン使用量の削減	・「エコドライブ10のすすめ」取組み 1) ふんわりアクセル「eスタート」 2) 加減速の少ない運転 3) 早めのアクセルオフ など10項目 ・「10のすすめ」を車両に携帯		・「エコドライブ10のすすめ」取組み 1) ふんわりアクセル「eスタート」 2) 加減速の少ない運転 3) 早めのアクセルオフ など10項目 ・「10のすすめ」を車両に携帯 ・重機のアイドリングストップの励行 ・共同運行の推進、相乗りの推進	
④CO2排出量の削減	・上記①②③の活動による		・上記①②③の活動による	
⑤一般廃棄物搬出量の削減	・廃棄物の重量実績把握 ・分別ボックスの設置（分別の徹底） ・使い捨て製品の使用制御（詰替え製品の購入 ・個人の持込ゴミの持帰り ・コピー済み用紙の裏面の再利用、メモ用紙としての使用		・廃棄物の重量実績把握 ・分別ボックスの設置（分別の徹底） ・使い捨て製品の使用制御（詰替え製品の購入 ・個人の持込ゴミの持帰り	
⑥建設産廃リサイクル率の向上			・建設副産物のリサイクル率100％の維持	
⑦水使用量の削減	・蛇口付近に節水ステッカー掲示 ・節水コマの設置 ・洗車方法の工夫		・簡易トイレ等は、河川水または雨水の使用	
⑧グリーン購入	・エコマーク、グリーンマーク商品の優先購入		・エコマーク、グリーンマーク商品の優先購入	
⑨地域貢献活動			・毎月1回の美化作業（ロードクリーン活動）	
⑩建設工事工期の短縮			・工期途中での工程管理の見直し	

[6]環境経営目標とその実績(令和3年度)

環境経営目標と実績

取組み期間 ： R3(2021)年 9月 1日 ～ R4(2022)年8月31日 (1年間)

項 目	単位	H30年9月 ～R元年8月 (実績・基準)	R3年9月 ～R4年8月 目標	R2年9月 ～R3年8月 実績	目標 達成率*1 (%)	備 考
1. 電力	kWh	4,688	4,547	2,693	168.8	
使用量削減		基準	-1%	-1854		
2. 軽油	L	47,620	46,191	29,240	158.0	
使用量削減		基準	-1%	-16,951		
3. ガソリン	L	2824	2,739	7,760	35.3	
使用量削減		基準	-1%	5,021		
1. ～3. 二酸化炭素	kg-CO2	131,151	127,216	94,438	134.7	
排出量削減*2		基準	-1%	-32,778		
4. 一般廃棄物	kg	252	244	158	154.4	
排出量削減		基準	-1%	-86		
5. 建設産廃 リサイクル率維持向上	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
6. 水 使用量削減	m^3	節水	節水	節水	節水	地下水使用
7. グリーン購入	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
8. 地域貢献活動 (本社周辺道路清掃)	回	12	12	12	100.0	
9. 建設工事工期 短縮	日	12	15	39	260.0	

*1: 目標達成率：削減目標の場合 目標÷実績×100 (%)
向上目標の場合 実績÷目標×100 (%)

*2: 二酸化炭素排出量 kg－CO2 ＝ (1:電気 kWh)×九州電力R1年度排出係数 0.370

[7]環境経営活動計画の実施状況

環 境 経 営 活 動 計 画 ① （事務所）

実施状況　　○:よくできた　△:だいたいできた　×:できなかった

項　目	事務所 担当者　野村 真由美	実施状況	実施出来なかった要因	実施のための改善
①電力使用量の削減	・エアコンの温度設定 夏は 28℃、冬は 20℃ の徹底 ・エアコンフィルターの定期的清掃 ・エアコンの終業15分前オフ ・日除け・ブラインドによる夏季室温上昇防止 ・OA機器の退社時の電源オフ ・不要時消灯の徹底	○ ○ ○ ○ ○ ○		
②軽油使用量の削減 ③ガソリン使用量の削減	・「エコドライブ10のすすめ」取組み 1) ふんわりアクセル「eスタート」 2) 加減速の少ない運転 3) 早めのアクセルオフ など10項目 ・「10のすすめ」を車両に携帯	○ ○		
④CO2排出量の削減	・上記①②③の活動による	○		
⑤一般廃棄物搬出量の削減	・廃棄物の重量実績把握 ・分別ボックスの設置（分別の徹底） ・使い捨て製品の使用制御（詰替え製品の購入 ・個人の持込ゴミの持帰り ・コピー済み用紙の裏面の再利用、メモ用紙としての使用	○ ○ ○ ○ ○		
⑥建設産廃リサイクル率の向上				
⑦水使用量の削減	・蛇口付近に節水ステッカー掲示 ・洗車方法の工夫	○ ○		
⑧グリーン購入	・エコマーク、グリーンマーク商品の優先購入	○		
⑨地域貢献活動				
⑩建設工事工期の短縮				

環 境 経 営 活 動 計 画 ② （工事現場）

実施状況　　○:よくできた　△:だいたいできた　×:できなかった

項　　目	工 事 現 場 担 当 者　松岡　由紀夫	実施状況	実施出来なかった要因	実施のための改善
①電力使用量の削減				
②軽油使用量の削減 ③ガソリン使用量の削減	・「エコドライブ10のすすめ」取組み 1) ふんわりアクセル「eスタート」 2) 加減速の少ない運転 3) 早めのアクセルオフ など10項目 ・「10のすすめ」を車両に携帯 ・重機のアイドリングストップの励行 ・共同運行の推進、相乗りの推進	○ ○ ○ ○		
④CO2排出量の削減	・上記①②③の活動による	○		
⑤一般廃棄物搬出量の削減	・廃棄物の重量実績把握 ・分別ボックスの設置（分別の徹底） ・使い捨て製品の使用制御（詰替え製品の購入 ・個人の持込ゴミの持帰り	○ ○ ○ ○		
⑥建設産廃リサイクル率の向上	・建設副産物のリサイクル率100％の維持	○		
⑦水使用量の削減	・簡易トイレ等は、河川水または雨水の使用	○		
⑧グリーン購入	・エコマーク、グリーンマーク商品の優先購入	○		
⑨地域貢献活動	・毎月1回の美化作業（ロードクリーン活動）	○		
⑩建設工事工期の短縮	・工期途中での工程管理の見直し	○		

[8]環境経営目標の達成状況の評価及び次年度の取組み

取組み期間 ： R3(2021)年 9月 1日 ～ R4(2022)年8月31日 (1年間)

項 目	目標達成状況 % ○・×	達成・未達成の要因 (環境経営目標の妥当性、環境経営活動計画の実施状況含む)	次年度の取組み 環境経営目標の追加変更 環境経営活動計画への追加変更
1. 電力 使用量削減	168.8% ○	環境経営活動計画の実施できていた。自主的活動の成果。	引続き環境経営活動計画を徹底していく。
2. 軽油 使用量削減	158.0% ○	環境経営活動計画の実施できていた。ダンプ台数の減少によるかも。	引続き環境経営活動計画を徹底していく。目標設定を行い環境経営活動をしていく
3. ガソリン 使用量削減	35.3% ×	大幅に使用量が増えた。現場が遠方が多かった。	今回の結果を基に、目標設定を行い環境経営活動をしていく
4. 1. ～3. 二酸化炭素 排出量削減	134.7% ○	目標達成は出来たが、ガソリン使用量が非常に増加している。	今回の結果を基に、目標設定を行い環境経営活動をしていく
5. 1. ～3. 二酸化炭素 排出量削減 Co2 /売上高(百万円)	120%.0 ○	原単位(CO2排出量)/売上高(百万円)にて算出で、達成。	引続き環境経営活動計画を徹底していく。
6. 一般廃棄物 排出量削減	154.4% ○	環境経営活動計画の実施できていた。	引続き環境経営活動計画を徹底していく。
7. 建設産廃 ﾘｻｲｸﾙ率向上	100.0% ○	環境経営活動計画の実施できていた。	〃
8. 水 使用量削減	100.0% ○	環境経営活動計画の実施できていた。	〃
9. グリーン購入	100.0% ○	グリーン商品の優先購入を行った。	グリーン商品の優先購入の継続。
10. 地域貢献活動 (本社周辺道路清掃)	100.0% ○	環境経営活動計画の実施できていた。	引続き環境経営活動計画を徹底していく。
11. 建設工事工期 短縮	260.0% ○	工事工程の管理がうまく行えた。	引き続き徹底した工程管理(短期的な)に努める。

[9]環境関連法規等の遵守状況

調査実施日　令和5年3月1日

適用法規	法規の要求事項	適　正	不適正
廃棄物処理及び清掃に関する法律	保管場所表示、保管基準の遵守	○	―
	運搬・処分業者との委託契約	○	―
	マニフェストの交付、回収	○	―
	県へのマニフェストの年間報告書の提出	○	―
	運搬車両への表示、マニフェスト携帯	○	―
リサイクル法	長期使用、再生資材使用の努力義務 適切な処理業者への処分依頼	○	―
家電リサイクル法	買換え時リサイクル料の負担 適切な処理業者への処分依頼	○	―
自動車リサイクル法	車検又は買換え時リサイクル料の負担 適切な処理業者への処分依頼	○	―
建設リサイクル法	建設廃材の適正処理（リサイクル）	○	―
騒音規制法 （特定工事）	施工計画書による工事及び遵守の届出 騒音防止対策の実施	○	―
振動規制法 （特定工事）	施工計画書による工事及び遵守の届出 振動防止対策の実施	○	―
フロン排出抑制法	点検の遵守 点検簿の記録	○	―

① 環境関連法規等への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。
② 環境関連法規等への訴訟はありません。

[10]代表者の全体評価と見直し

作成者氏名:　　野村　昌央

1、全体の評価　　作成年月日　　令和5年3月25日

今回は、登録して3年目であったので、中間審査になった。
日々従業員全体で努力しているのは感じられた。ただ、このような実績になったことには検討の余地があるものと思われる。
電力の大幅な減少については、事務所内で不在の時の消灯・ACオフの徹底等によるものかと思われる。また、軽油の削減においては、ダンプの減少かと思われる。
ガソリン使用については、台数の増加に伴ない、目標の設定の検討が必要かと思われる。
まだまだ、異常気象や大手工場の進出等で状況が変化していく中、環境問題・SDGsを考慮しながら経営活動をしていきたいと思う。

2、見直し結果

見直し指示内容	項　　目		見直しの必要性		「有」の場合の指示内容等
	1	環境経営方針	有	(無)	―
	2	環境経営目標	(有)	無	改めて1年間実績を踏まえ、設定の仕方を検討。
	3	環境経営活動計画	有	(無)	―
	4	実施体制	有	(無)	―